

受賞年	氏名	受賞理由	受賞年	氏名	受賞理由
1901	レントゲン W. C. Röntgen	X線の発見	1920	キョード C. E. Guillaume	ニッケル鉄合金(インバーン)の異常性の発見による精密測定への貢献
1902	J. H. van't Hoff	(化)化学熱力学の法則および溶液の浸透圧の発見	1921	ネルンスト W. H. Nernst	(化)熱化学の研究
	ローレンツ H. A. Lorentz	磁気放射現象に及ぼす影響		アインシュタイン A. Einstein	数理物理学への功績、とくに光電効果の発見
1903	ペクレル P. Zeeman		自然放射能の発見	F. Soddy	(化)放射性物質の化学への貢献と同位体の存在および性質に関する研究
	H. A. Becquerel	N. ボーア N. Bohr		原子の構造とその放射に関する研究	
1904	P. Curie, M. Curie	ベクレルの発見した放射現象に関する研究	アストン F. W. Aston	(化)質量分析器による、多くの非放射性物質における同位体の発見、とくに整数法則の発見	
	フレシカス S. A. Arrhenius		1922	ミリカン R. A. Millikan	電荷の単位と光電効果に関する業績
1905	レイリー卿 Lord Rayleigh	気体密度の研究とアルゴンの発見		M. ジェグバハーン M. Siegbahn	X線領域の分光学の発見と研究
	ラムゼー W. Ramsay		1923	J. フランク J. Franck	原子と電子の衝突を支配する法則についての発見
1906	レーナルト P. E. A. Lenard	気体の電気伝導に関する理論的実験的研究	G. L. ヘルツ G. L. Hertz	R. A. Zsigmondy (化)コロイドと限外顕微鏡	
	J. J. トムソン J. J. Thomson		1924	J. B. ペラン J. B. Perrin	物質の不連続構造の研究、とくに沈殿平衡の発見に対して
1907	マイケルソン A. A. Michelson	精密干渉計の考察と、それを用いた分光学およびメートル原器に関する研究	コンプトン A. H. Compton	コンプトン効果の発見	
	リッブマン G. Lippmann		1925	C. T. R. ウィルソン C. T. R. Wilson	霧箱を用いて荷電粒子の飛跡を見る方法の研究
1908	ラザフネード E. Rutherford	(化)元素の崩壊および放射性物質の化学に関する研究	O. W. リチャードソン O. W. Richardson	熱電現象の研究、とくにそれに関する法則の発見	
	マルコーニ G. Marconi		1926	フォークロイ L. V. de Broglie	電子の波動性の発見
1909	K. F. ブラウン K. F. Braun	無線電信の開発への寄与	ラマン C. V. Raman	光の散乱についての研究とラマン効果の発見	
	オストワルド F. W. Ostwald		1927	ハイゼンベルグ W. Heisenberg	量子力学の確立とオルトヘンパラ水素の発見
1910	フアン・デル・ワールス J. D. van der Waals	気体および液体の状態方程式の研究	L. ランジュ L. Langmuir	(化)界面化学における発見と研究	
	ワグネル W. Wien		1928	シュレーディンガー E. Schrödinger	新形式の原子理論の発見
1911	M. キュリー M. Curie	(化)ピコウラムとポロニウムの発見と金属状態ラジウムの分離ならびにこの元素の性質の研究	1929	H. C. ウィリー H. C. Urey	(化)重水素の発見
1912	ダレン N. G. Dalen	燈台や燈浮標の照明用のガス貯蔵器につける自動調節機の発明	チャドウィック J. Chadwick	中性子の発見	
	カマリノング・オネス H. Kamerlingh-Onnes		1930	ジョリオ・キュリー夫妻 F. Joliot-Curie, I. Joliot-Curie	(化)放射性物質の人工生成
1913	ラウエ M. von Laue	(化)多数の元素の原子量の精密測定	1931	V. F. ヘス V. F. Hess	宇宙線の発見
1914	リチャードズ T. W. Richards	X線による結晶構造研究への貢献	C. D. アンダーソン C. D. Anderson	陽電子の発見	
	W. H. ブラッグ、W. L. ブラッグ W. H. Bragg, W. L. Bragg		1932	デブライ P. J. W. Debye	(化)分子の双極子モーメントおよびX線・電子線回折の研究による分子構造の解明への貢献
1915	バークラ C. G. Barkla	元素の特性X線の発見	1933	デビッソン C. J. Davison	結晶による電子の干渉現象の実験的発見
1917	プラランク M. Planck	エネルギー量子の発見	1934	G. P. トムソン G. P. Thomson	
1918	シュタルク J. Stark	陰極線のドブナー効果と電場の中でのスペーストラールの発見	1935		
1919			1936		
			1937		

表 87 ノーベル賞受賞者一覧 (2)

受賞年	氏名	受賞理由
1938	フェルミ E. Fermi	中性子照射によってつくられる新放射性元素の発見と重い中性子による原子核反応の発見
1939	E. O. ローレンス E. O. Lawrence	サイクロトロンの発明と開発とそれによる研究、とくに人工放射性元素に関する成果
1943	シュテルン O. Stern	分子線の方法の開発と陽子の磁気モーメントの発見
1944	ラービ I. I. Rabi	(化)化学反応研究に対するトローサーとしての放射性同位体利用に関する研究
1945	ハーン O. Hahn	原子核の磁気的性質を記録するための共鳴法の発見
1946	ブリッジマン P. W. Bridgeman	(化)原子核分裂の発見
1947	アップルトン E. V. Appleton	超高圧発生装置の発明と高圧物理学分野における発見
1948	ブラックett P. M. S. Blackett	高層大気の物理的性質の研究とくにフツアルトソンの発見
1949	湯川秀樹	霧箱の開発と、それを用いた原子核および宇宙線物理学分野の発見
1950	ジャーク W. F. Giaque	核力の理論的研究による中間子の予言
1951	パウエル C. F. Powell	(化)化学熱力学への貢献、とくに極低温における物質の性質の研究
1952	ブロック J. D. Cockcroft	原子核乾乾法の開発とそれを用いた中間子の発見
1953	ウォルトン E. T. S. Walton	人工的に加速した粒子による原子核変換
1954	シーボーグ G. T. Seaborg	(化)超ウラン元素の発見
1955	マッヒラン E. M. McMillan	核磁気共鳴吸収法の開発とこれを用いた発見
1956	ブロッホ F. Bloch	位相差法の発見と位相差顕微鏡の発明
1957	ボルン M. Born	量子力学の基礎研究、とくに波動関数の統計的解釈
1958	ボーテ W. Bothe	コイソソテンソ法とこれを用いた発見
1959	ポール L. C. Pauling	(化)化学結合の本性ならびに複雑な分子の構造に関する研究
1960	ラム W. E. Lamb	水素スペクトルの微細構造に関する発見
1961	クッシュ P. Kusch	電子の磁気モーメントの精密測定
1962	ショックレー W. Shockley	半導体に関する研究とトランジスタ効果の発見
1963	J. Bardeen J. Bardeen	
1964	ワラツタ W. H. Brattain	
1965	リー Lee, T.-D.	素粒子のバリオン非保存についての研究
1966	ヤン Yang, C.-N.	
1967	チェレンコフ P. A. Cherenkov	
1968	ラム I. E. Tamm	
1969	フランク I. M. Frank	
1970	セグレ E. Segre	
1971	チェンバレン O. Chamberlain	
1972	グラーゼ D. A. Glaser	
1973	リビー W. F. Libby	
1974	ホフスタッター R. Hofstadter	
1975	マッスバウアー R. Mössbauer	
1976	カルビン M. Kalvin	
1977	ランダウ L. D. Landau	
1978	ケンフルー J. C. Kendrew	
1979	ヘルペッツ M. F. Perutz	
1980	クリック F. H. C. Crick	
1981	ワトソン J. D. Watson	
1982	ワイルキンス M. H. F. Wilkins	
1983	ウイグナー E. P. Wigner	(生医)核種の分子構造および生体内での情報伝達に果す意義の発見
1984	メイヤー M. G. Mayer	原子核と素粒子の理論、とくに対称性の基本原理の発見とその応用
1985	イェンゼン J. H. D. Jensen	原子核の殻構造の発見
1986	タウンズ C. H. Townes	レーザー、レーザーの原理にもとづく発振器と増幅器の作成に導いた量子エレクトロニクス分野の研究
1987	バソフ N. G. Basov	(化)X線回折による生体物質の分子構造の決定
1988	プロホロフ A. M. Prokhorov	量子電磁力学の基礎研究
1989	ホジキン D. C. Hodgkin	原子のラジオ波共鳴の研究のための光学的方法の発見と開発
1990	朝永振一郎 Shohei Uchiyama	(化)分子軌道法による化学結合および分子の電子構造について基礎研究
1991	シュヴァインガー J. Schwinger	原子核反応理論への寄与、とくに星のエネルギー生成に関する発見
1992	ファインマン R. P. Feynman	
1993	カストレル A. Kastler	
1994	マリケ R. S. Mulliken	
1995	ベーテ H. A. Bethe	

表 87 ノーベル賞受賞者一覧 (3)

受賞年	氏 名	受賞理由	受賞年	氏 名	受賞理由
1968	アルバル L. W. Alvarez	水素泡箱の使用とデータ解析技術の開発による多数の共鳴状態の発見	1979	グラシヨウ S. L. Glashow ワインバーグ S. Weinberg サラム A. Salam	弱い相互作用と電磁相互作用の統一理論への貢献、とくに弱い中性カレントの予言
1969	オンサーガー L. Onsager	(化)不可逆過程の熱力学における基本的な相反定理の発見	1980	ハウンズフィールド G. N. Hounsfield コーマック A. M. Cormack	(生医)コンピュータを用いたX線断層撮影技術の開発
	ゲルマン M. Gell-Mann	素粒子の分類とそれらの相互作用についての寄与と発見	1981	バイオergen N. Bioernergen ジョーロウ A. L. Schawlow	中性K中間子の崩壊におけるCP対称性の破れの発見
	デルブリック M. Delbruck	(生医)ウイルスの増殖サイクルおよび細菌やウイルスにおける遺伝物質の役割に関する発見	1982	フレイッチ V. L. Fitch	レーザー分光学への貢献
1970	アルベーン H. Alfvén	電磁流体力学の基礎的発見とプラズマ物理学などへの応用	1983	チャンドラスセカール S. Chandrasekhar ワ. A. フラウラー W. A. Fowler	高分解能電子分光学への貢献
	ネール L. Néel	反強磁性およびフェリ磁性に因する研究と発見	1984	ルビビア C. Rubbia フレンツェル・メー S. van der Meer	(化)化学反応過程への量子力学の応用
1971	ガボール D. Gabor	ホログラフ法の発明とその後の発展	1985	クニツィング K. von Klitzing	(化)結晶構造決定のための直接的方法の開発に対する貢献
	ヘルツバーグ G. Herzberg	(化)分子とくに遊離基の電子構造および幾何学的構造の解明	1986	ハルトマン H. A. Hauptman カール J. Karle	電子光学の基礎研究と最初の電子顕微鏡の設計
1972	バーデン J. Bardeen	BCS理論とよばれる超伝導理論	1987	ルスカ E. Ruskka ビニーツヒ G. Binnig ローラー H. Rohrer	走査型トンネル電子顕微鏡の開発
	クーパー L. N. Cooper	半導体内におけるトランスポール効果の実験的	1988	ベドノルツ G. Bednorz ミューラー A. Müller	新超伝導物質の発見
1973	江崎玲於奈 キユバニ I. Giaever	トンネル効果の理論的予想	1989	レーダーマン L. Lederman ジュワラルツ M. Schwartz シュタインバーガー J. Steinberger ラムゼー N. F. Ramsey デーケルト H. G. Dehmelt パウル W. Paul	ニュートリノビーム法の開発とニュートリノ発見によるレプトンの二重構造の実証
1974	ライル M. Ryle	電波観測とくに開口合成技術の発明			
	ヒューソン A. Hewish	(化)高分子物理学における実験・理論両面における基本的貢献			
	フロリー P. J. Flory				
1975	ボーア A. Bohr	原子核内核子の集団運動の関数の発見と原子核構造の理論	1986	キング A. King	(化)生体物質の結晶電子顕微鏡の開発
	モッテルソン B. R. Mottelson				
	ラインワター J. Rainwater				
1976	チン S. C. C. Ting	重い新素粒子J/ψの発見			
	リヒター B. Richter				
1977	アンダーソン P. W. Anderson	磁性体と無秩序系の電子構造の研究			
	ペン・フレック J. H. Van Vleck				
	モット N. F. Mott				
	プリゴジネ I. Prigogine	(化)非平衡熱力学とくに散逸構造の研究			
1978	カピッツ P. L. Kapitza	低温物理における基礎的発明と発見			
	ペンツァス A. A. Penzias				
	ワイルソン R. W. Wilson	3K宇宙黒体放射の発見			

ノーベル賞受賞者一覧(4)

受賞年	氏 名	受賞理由	受賞年	氏 名	受賞理由
1989	ラムゼー N. F. Ramsey デーメルト H. G. Dehmelt パウル W. Pauli	分離した振動場法(ラムゼー共鳴法の発明と水素メーザー)その他の原子時計への応用	2001	E. A. Cornell W. Ketterle C. E. Wieman	アルカリ金属の希薄気体でのボース・アインシュタイン凝縮の実現
1990	フリードマン J. Friedmann ケンフォード H. Kendall レイラー R. Taylor	クオーク模型の展開に決定的な重要性をもった陽子と束縛中性子による電子の深非弾性散乱の先駆的研究	2002	R. Davis Jr. 小柴昌俊 R. Giacconi	宇宙物理学へのバリエオニア的寄与 宇宙からのニュートリノの検出 宇宙X線源の発見
1991	ド・ジエンズ P. G. de Gennes	単純な系の秩序の発現に対する研究方法がより複雑な物質、とくに液晶や高分子に一般化できることの発見	2003	A. A. Abrikosov V. L. Ginzburg A. J. Leggett	超伝導体および超流動体の理論
1992	エルンスト R. R. Ernst シヤルパツク G. Carpak	(化)高分解能 NMR 分光法の開発 素粒子検出器、とくに多線式比例計数管の発明と改良	2004	D. J. Gross H. D. Politzer F. Wilczek	強い相互作用の理論における漸近自由度の発見
1993	ハルス R. A. Hulse テイラー J. H. Taylor, Jr.	重力研究に新しい可能性を開いた新型パルサーの発見	2005	R. J. Glauber J. L. Hall T. W. Hansch	光コヒーレンスに関する量子論 レーザーによる精密分光法、とくに光コム法の開発
1994	アロツクハウス B. N. Brockhouse シヤル C. G. Shull	凝縮体の研究のための中性子散乱技術の開発に対する先駆的寄与	2006	J. C. Mather G. F. Smoot	宇宙マイクロ波背景輻射の異方性
1995	パール M. I. Perl ライナス F. Reines	レプトン(軽粒子)物理学の先駆的実験	2007	A. Fert P. Grunberg (化) Gerhard Ertl	巨大磁気抵抗効果の発見 固体表面における化学反応プロセスの研究
1996	David M. Lee Douglas D. Osheroff Robert C. Richardson	ヘリウム3での超流動の発見	2008	南部陽一郎 小林誠 益川敏英	Subatomic 物理学での自発的対称性の破れのメカニズムの発見 少なくとも3世代のクオークが存在することを予言した対称性の破れの起源の発見
1997	Steven Chu Claude Cohen-Tannoudji William D. Phillips	レーザー冷却とアトムトラップ法の開発	2009	C. K. Kao W. S. Boyle G. E. Smith	光通信のためのファイバー内での光透過に関する画期的な成果 CCDDと呼ばれるイメージング半導体回路の発明
1998	Robert B. Laughlin Horst L. Störmer Daniel C. Tsui	分数量子ホール効果の発見	2010	A. K. Geim K.S.Novoselov	2次元物質グラフェンに関する画期的な実験
1999	(化) Walter Kohn John A. Pople Gerardus 't Hooft Martinus J. G. Veltman	密度汎関数理論の開発 量子化学での計算法の開発 電弱相互作用の量子構造	2011	Saul Perlmutter Brian P. Schmidt Adam G. Riess	超新星観測による宇宙の加速膨張の発見
2000	(化) Ahmed H. Zewail Herbert Kroemer (独) Jack S. Kilby (米)	フェムト秒分光法による化学反応の遷移状態の研究 情報通信テクノロジーへの基礎的貢献。 (高速光エレクトロニクスに使用される半導体ヘテロ構造の開発) (ICの発明)	2012	Serge Haroche David J. Wineland François Englert Peter W. Higgs	個々の量子系を測定・操作する革新的実験技術 素粒子の質量の起源の理解に寄与するメカニズムの理論的発見
2000	Zhores I. Alferov (ロ)	情報通信テクノロジーへの基礎的貢献。	2013	Eric Betzig Stefan W. Hell William E. Moerner	(化) 超解像蛍光顕微鏡の開発
2000	Herbert Kroemer (独) Jack S. Kilby (米)	(高速光エレクトロニクスに使用される半導体ヘテロ構造の開発) (ICの発明)	2014	Arthur B. McDonald	ニュートリノに質量があることを示す ニュートリノ振動現象の発見